



七葉中学校では、人権教育、同和教育に力を入れています。年間を通して、人権教育に取り組む人権団体の活動や関連資料、『生きるIV』等を活用して、計画的に授業や事業を行っています。差別問題を自分のこととしてとらえ、部落差別をはじめとして、あらゆる差別や偏見を許さない行動に結びつけられるように学習を進めています。七葉中学校区では、昨年度の七葉小学校での文部科学省指定研究の研究発表会が行われたことを一つの機会として保育園から中学校までの成長段階に合わせて学習できるように、「人権教育、同和教育共通指導計画一覧表」を作成するなどして、中学校区ぐるみで人権学習、同和教育の取組を行ってきました。

＜校内人権パネル展の開催＞

当校では、毎年関係機関から展示資料を集め、人権パネル展示による学習をすすめています。今年度も、6月21日（火）に新発田市隣保館から、人権パネルをお借りして、校内人権パネル展を実施しました。そこに展示したのは、被差別部落の輝かしい技術と文化に関する内容、全国水平社など差別との闘いを記した歴史、今なお残る差別や進路の保障に関する内容で、生徒とともに学習を深めました。なお、保護者、地域の方にもご案内して見ていただきました。



【生徒の感想から】

- 神楽や大黒舞の伝統芸能を伝承している文化は、とてもすごいと思いました。
- 私たちが、お肉をおいしく食べられたり、医学が進歩して治る病気が多くなってきたのもこうした人たちの技術のおかげだと思って感動しました。
- 改めて、差別はいけないということを実感しました。差別された人は、何も悪いことをした訳ではないのに、する方の人は何で差別するのかを疑問に思います。
- 小学校のころから、水平社宣言に関する学習を学んできたけれど、今でも身近な地域に差別があるということがショックです。僕がいちばんおかしいと思ったことは、身近なところに「差別ダメ」という看板があるけれど差別はあるということ、また、アンケートでも差別はいけないことだとしてしっかり捉えている人が少ないということです。
- 狭山事件について、もしも、大人たちが私たちのように人権学習をしていたら、少しは、差別による逮捕、取り調べの状況が変わっていたかもしれないけど、その「もしも」は存在しないのだから自分たちがこれから差別についてちゃんと考えていかなければだめだなあと感じました。
- 人権の大切さを学びました。これから自分にできることをして、差別をなくしていきたいと思いました。
- 今回の学習で明確に自分の考えを持つことができました。それは、差別への意識についてです。一人一人が一人の人間。つまり、人権があるわけです。なのに偏見から生まれていく差別。差別が起こるのはまず一人一人の意識の問題。それをまず、変えなければと思いました。

<人権教育講演会>

9月29日(木)に第70回文化庁芸術祭芸能部門優秀賞、第6回奈良人権文化選奨受賞の関西「落語家」露の新治様をお招きし、PTA行事と共催して人権教育講演会を行いました。当日は、保護者の皆さんも含めて200人近い参加者でした。「お笑い人権話～自分の人生、自分が主役～」を演題にして、軽快な落語調でおもしろさ、楽しさの中にも、かけがえのない自分という存在、相手に尊敬の念をもつことなど、人としての生き方を教えていただきました。

生徒の印象に残った言葉や事柄から

- 宝の子 ○自信=自芯 ○願生る(がんばる)
- 背が低い、チビと言われてもそれは自己責任ではない。「あの子の方がチビ」というのはやめようと話していたこと。



【生徒の感想から】

- 内容がすごく心に残るもので、自分が経験しているから言えることなんだと思いました。親にとって自分の子は宝であるというのを教えてもらい、改めて親は大事なんだと思いました。今日の学習は、自分にとって一生忘れない内容で大切なことだと思いました。
- 自分の命は大事にして簡単に無くすようなことはしてはいけないと思った。これからも笑って過ごし楽しく生きていきたいと思った。
- 「自殺は自分を差別していること」「死ぬこと以外はすべてかすり傷」とおっしゃられていたのを聞いて、自分が今まで苦しいと感じていたことはささいなことであったり、くだらないことであったのでは？と感じるようになりました。これからは、何事も積極的に自芯(自信)をもって恐れずに生きていこうと思いました。
- 自分も背が低い。チビと言われたことを「あの子の方が・・・」と言ったことがあるから、これからはやめようと思ったし、気にせずに願生ってやっていこうと思った。



<同和教育公開授業の実施>

11月25日(金)に同和教育公開授業を行いました。当日は、七葉中学校区の小学校の先生方や保護者・地域の方々等に参観していただきました。これは、保護者や地域の方々へも人権教育、同和教育のすそを広げる機会と捉えています。

【具体的な授業内容】

3年生は、「水平社創立と立ち上がった人々(『生きるIV』より)」を教材として学習しました。差別されていた人々が差別に負けず、自らの手で差別をなくそうと水平社を結成します。その水平社創立に込められた人々の願いや思い、絆の強さに共感し、差別をなくすために行動した生き方について学びました。

2年生は、「教科書がほしい～高知・長浜の教科書無償闘争をめぐって(『生きるIV』より)」を教材として学習し、全国水平社の流れをくむ部落解放同盟があることを知り、義務教育の教科書無償制度は、その運動の成果であることを理解し、部落差別をなくす運動がすべての人々の権利向上につながっていることを確認しました。

1年生は、「障がいのある人々への差別(『生きるIV』より)」を教材として学習し、障がいと真正面から向き合い、自分らしく生きる主人公の生き方から差別や先入観、偏見を持たずに、人として理解を深めて支援することの大切さを学びました。

